

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371301090		
法人名	株式会社ライフケアみおつくし		
事業所名	グループホーム安楽樹 A棟		
所在地	名古屋市守山区笹ヶ根一丁目101番地		
自己評価作成日	令和4年2月28日	評価結果市町村受理日	令和4年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2371301090-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和4年4月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

まずはこの場をお借りして、昨今のコロナ禍において、感染予防の点からも地域活動の点からも皆様にはご理解・ご協力頂き、大変感謝しております。この状況下において自分達には何が出来るか、何をしなければならぬかをよく考え、少しでも皆様や私達にとってより良い日を目指して行きます。

名古屋市内の比較的便利な住宅街にありながら、緑豊かな自然に囲まれ、敷地内にいながらにして、春は桜、菖菰、秋は紅葉、ピワやミカンの収穫と季節の変化を楽しむことが出来ます。

また敷地内にある畑で野菜や花を育て、ご利用者様自らが収穫したもので食事の彩や、お茶のお供にしたり、育てた花で部屋を飾ったりと、日々の日常に豊かな空間を演出しております。

この状況下の中、感染予防を第一に考え、利用者様に少しでも自由な空間を楽しんで頂けるようにドライブのレクリエーションを多く取り入れたり、お庭でのレクリエーションを多く行い、少しでもストレスの緩和のアイデアを考えております。

もし、宜しければ、この場をお借りしてアイデアを頂けると幸いです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

現状の感染症問題が長期化する中で、地域の方との交流が困難になっている状況であるが、運営法人全体で地域の方の理解と協力を得ながら、地域交流に関する様々な取り組みを継続している。新たな取り組みとして、地域の図書館の理解と協力を得たカフェの取り組みをはじめ、感染症対策を行いながら地域貢献につなげる取り組みが行われている。利用者の外出についても困難な状況が続いているが、利用者が日常的にホームの外に出る機会をつくっており、利用者が日常生活の中で閉塞感を感じないような配慮が行われている。医療面についても協力医や訪問看護との柔軟な対応が行われていることも特徴でもある。また、職員研修の取り組みについては運営法人全体で行われており、様々なテーマで研修の機会をつくりながら、職員の資質向上につなげる取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	各職員に浸透するよう、リビングと玄関の誰もが 見やすい場所に掲示し、毎月のカンファレンスご とに唱和・確認を行い、理念に即した介護に努め ている。	運営法人の基本理念をホームの支援の基本 に考えており、ホーム内に理念の掲示が行 われている。また、運営法人全体で職員研修 の取り組みが行われており、理念の共有と実 践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している。	町内会に加入しており、例年は盆踊り等で地域 の方との交流を行っている。 今年はコロナ禍の為、各種行事が中止となり、交 流の場が減っていますが、講演会や研修等、認 知症啓発の推進にも地域の方のご協力を頂き、 大変感謝しております。	感染症問題が長期化している状況であるが、 ホームでは、関連事業所とも連携しながら地 域貢献につながる活動を継続する取り組み が行われている。今年度も地域の学校や図 書館との地域貢献活動が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている。	ホームの専門性を活かし、いつでも相談に応じら れる体制を作っている。 今はコロナ禍の為、最善と考えられる対策をした 上で、講演会への講師派遣等の参加で地域貢 献に繋げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている。	今年度はコロナ禍における対応でどうしても電話連絡 やお手紙での連絡が中心となっておりますが、会議は なるべく委員の方に意見を述べて頂き、それに答える 形で進めている。施設来訪時やお電話等、ご家族様か らの意見をお聞きし、会議の議題に挙げる等、幅広い 意見を頂いている。	会議については、参加人数を限定しながら継 続しており、会議の関係者にホームや運営法 人の取り組みを知ってもらい取り組みが行わ れている。また、関連の小規模多機能事業所 と連携した会議の開催も行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市役所や区役所との連携で、指導やアドバイ スを受ける等お世話になっている。また今年は中 止となりましたが、守山区社会福祉協議会主催 の福祉祭りには毎年参加をしており、他にもイ ベント等がある時にはできるだけ参加をするよう に心掛けている。	市担当部署や地域包括支援センターとの交 流については、運営法人全体で行われてお り、ホームからも区の様々な取り組みに参 加、協力する機会をつくる取り組みが行われ ている。また、当ホームでも生活保護の方の 受け入れが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解して おり、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケア に取り組んでいる。	職員一人一人に拘束本来の意味と目的を考える 機会をカンファレンスや当社独自の研修で取り上 げ、各職員に当社理念に基づいた介護には拘束 は不必要であると理解してもらっている。 またコロナ禍と言うこの状況下における拘束も考 え、実践に繋げている。	運営法人全体で身体拘束を行わない方針で 支援が行われており、当ホームでも身体拘束 は行われていない。また、身体拘束に関する 定期的な検討や職員研修も運営法人全体で 行われており、職員の振り返りの機会につな げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につい て学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を払 い、防止に努めている。	毎月の幹部会議、主任会議、カンファレンス等 で議題にあげ、確認し合っている。また入浴時に身 体の確認をしている。また言葉や無視による虐 待が無いよう特に注意を払い、目に見えない行 為の防止にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	後見人や身元引受人の方の協力を頂きながら、カンファレンスや社内独自の研修時に学ぶ機会を設け、守秘義務に留意し理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご本人の生活状況やご家族の不安・疑問点をお聞きしたうえで、理解して頂けるように説明する事を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	事業所便りを年5回程ご家族へ送り、近況をお知らせしたり、ご家族が来訪された際に近況をお伝えし、ご家族の意向を聴き運営に反映するように努めている。	現状、家族との交流が困難な状況が続いているが、面会の機会をつくる等、現状で可能な支援が行われている。管理者が運営法人の幹部職員でもあり、家族からの要望等に柔軟に対応している。また、定期的なホーム便りの作成も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の幹部会議、主任会議、カンファレンス等を通じて職員の意見等を聞き、可能な事は取り入れ、介護を行いやすい環境作りに努め、反映させるようにしている。そのためにホーム長室を大きく設け、職員にとって開かれた環境を心がけている。	職員会議や日常的な申し送りが行われており、管理者が把握した職員からの意見等には、運営法人を通じてホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、職員面談の取り組み等、職員一人ひとりの把握につなげる取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	社内ライセンス制度を設け職員のやりがいにつながるように研修を行っている。ライセンス合格者も徐々に増え、合格者が未受験者に対し研修を行うようになってきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	接遇の研修も含まれる、リーダー研修の参加者を増やし、その参加職員が一層研鑽できるような社内研修を充実させる。 『やらされる研修』から『知りたい研修』へと研修内容を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	名古屋市や守山区の各連絡協議会等に参加しており、情報収集や研修会等に参加し、サービスの質の向上が図れるように努めている。 また有志による守山区グループホーム連絡会を企画し、管理者や協力者による勉強会等を行っている。昨年からは近くのグループホーム管理者の有志と共に地域の図書館で認知症啓発活動の推進を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前や入所時にご本人と話す機会を少しでも多く設け、要望や意見を良く聴き安心して信頼関係を築いて頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族とも話す機会をなるべく多く持ち、要望や意見が出やすいような雰囲気を作り、良い関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人やご家族の意向を聞いたり、ご本人の状況を出るだけ詳しく把握し、適切なサービスが提供できるように努めている。 「コロナ禍だから～」と決めつけるのではなく、コロナ禍だからできる事を考え、利用者様・ご家族の心の負担を少しでも軽く出来るように支援していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	カンファレンス時等に常に職員がご本人だったらどうしたいかを念頭に指導している。 職員は介護を行うだけの関係でなく、自分も共同生活の一員としての立場に立ち利用者様に寄り添った介護を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は日常的に家族と連絡を密にして、利用者様により良いサービスを提供できるように努めている。又、認知症カフェや各イベントにご家族も参加して頂けるよう呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人の知人の方やご近所の方との繋がりを大切にして頂けるようお伝えしております。今はコロナ禍である為、皆様からのご協力を得て、今年度は電話や手紙等での繋がりが増えております。	現状、外部の方との交流が困難な状況が続いているが、利用者の中には関連事業所に身内の方が利用者である等、現状で可能な支援が行われている。また、家族との外出についても、感染症対策を行いながら可能な範囲で支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	極力ホールで過ごせるよう、声掛けや企画をし孤立しないような働きかけをしたり、職員が間に入り利用者様同士が会話を通じて良い関係が築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご家族にはコロナ禍で私共が出来る事をモットーに入所先が決まるまで気軽に相談をして頂くように伝えたり、いつでも相談に応じる旨を伝えている。ご利用が完了した利用者様ご家族様からの申し出で運営推進委員として活動して頂いたり、行事に参加して頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のコミュニケーションの中で個々の希望意向を把握しコミュニケーションが困難な利用者様に於いては家族からの聞き取りアセスメントを活用し把握に努めている。	職員間で利用者を担当する取り組みや専用の用紙を活用した利用者一人ひとりを細かく把握する取り組みを継続しており、意向等の把握と職員間での共有につなげている。また、毎月のカンファレンスも行われており、利用者の意向等の検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人やご家族とのコミュニケーションの中で、これまでの生活歴等を聴きとりをして把握に努めている。ご本人やご家族のお気持ちを大切に無理強いは行わず、話したい事を中心に聴き取りを行います。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	カンファレンス等で各利用者様の現状について話しあったり、申し送りノートを活用したりとスタッフ内での連絡・報告を徹底し、利用者様の現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成時に使う様式を主任会議等で作成し、よりスタッフの意見が多く取り入れられるようにしている。カンファレンスでサービス計画の見直し、作成を行い、又、御本人の思いを中心に家族の意見等聞き、本人の現状にあった計画作成に努めている。	介護計画については、6か月で見直しており、状態変化等に合わせた対応が行われている。また、専用の用紙を活用しながら職員が利用者に関する気付き等を記録に残しており、定期的なモニタリングが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	口頭や申し送りノート、介護記録等にて情報を共有して常に状態を把握できるようにし、介護計画の改善目標に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人の状態変化や現状に添った介護が出来るように職員間で共有し、特定のサービスにとらわれないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会や民生委員様との関係強化に努めることで良好な関係が築けている。また以前に役員や委員として活動されている方も関係を継続している。当施設の管理者が守山区認知症専門部会の会員である為、施設を挙げて地域の活動に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	当ホームでは入所時に主治医を当ホーム契約の医師に代わって頂くようお願いしています。月2度の往診、緊急時の往診、救急対応等もしてもらっている。	ホームでは、協力医との定期的及び随時の医療面での連携が行われており、利用者の健康状態に合わせた柔軟な支援が行われている。また、訪問看護との連携も行われており、協力医との情報交換等、医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションと契約しており、訪問看護、緊急時のサポートを密にし、看護指導等を受け、利用者様が適切な看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	複数の協力医療機関を持ち、安心して受け入れていただけるよう契約を取り交わしている。積極的に病院関係者から情報もいただき、施設での生活が出来る状態になったら早期に退院して認知症の進行を最小限にする努力をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した時の為に入所時に家族・後見人の意見をいただいている。又、ホームで出来る事・出来ない事を十分に説明し理解していただいている。状態に変化が見られた時は、その都度家族に連絡し、医療機関との連携の下、援助に取り組んでいる。	身体状態が重い方もホームでの生活を継続しており、協力医と連携しながら利用者の看取り支援も行われている。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを行い、ホームで支援可能な内容を検討し、利用者や家族の意向等に合わせた支援につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者様の急変又は災害時を想定し救急救命訓練や応急手当事故発生への対応訓練等を消防機関へ依頼することを定期的に計画し実践力を身に付けられるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災地震に備える為に自主防火防災計画書を作成し町内会組織にも組み込んでいただけるように申し入れを行っている。又、職員全員を対象に施設独自で炊き出し・防火防災訓練等も行っている。	年2回の避難訓練の他にも毎月の避難経路の確認が行われており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。関連事業所と連携した対応も行われている。また、ホームの倉庫内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	ホームが立地している敷地に避難経路等の制約もあるため、非常災害に関するホームの継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	会議や研修を通じ、徐々に職員も理解してくれて、尊厳を尊重する言葉かけをするようになった。	運営法人の基本理念には、利用者を尊重した対応を行う内容も掲げられており、職員間で理念の唱和、確認を行う機会を通じて意識向上につなげている。また、職員の接遇に関する研修も実施しており、職員の振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自分の思い・希望を出していただける雰囲気作りに努め、声掛けする中でもアンテナを広げ自己決定支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様がどのように生活したいかを介護の中心に置き、介護者側の都合を優先させないようにして利用者様のペースで生活出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外出時だけではなく、普段から利用者様の要望に沿った身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様お一人お一人が出来る事を把握し、食事の準備、配膳、後片付け等を分担し、役割を持つことで自尊心を高め、食事がより楽しみになるよう支援している。	食事については、外部業者も活用しながら提供が行われており、利用者の身体状態等にも合わせた食事形態の提供も行われている。また、おやつ作りをはじめ、季節等に合わせた食事の提供等、利用者の楽しみにつなげる取り組みも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	配食サービスを利用することでソフト食やペースト食であっても美味しく栄養のバランスがとれ、水分摂取量にも気を付けた支援を一日の流れの中で習慣として組み込み、その都度気配りしてお一人お一人への支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、各利用者様の状態・自立度に合わせたケアをして頂く、又は支援している。状態に応じて契約訪問歯科医療機関に出張診療、および職員に対し口腔ケア指導をしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	お一人お一人の排泄パターン把握に努め、時間や様子を見てトイレ誘導をし、出来るだけ自立した排泄が出来るように支援している。	利用者の排泄記録を残し、職員間で日常的に情報交換を行いながら、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。また、ホーム独自の取り組みとして、おむつに関する研修制度があり、排泄支援に関する職員の資質向上につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	配食サービスによる栄養バランスのとれた食事や、ラジオ体操や散歩等出来るだけ体を動かして頂けるよう働きかけたり、こまめに水分補給の声掛けを行う等、下剤に頼らない便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	バイタルチェックや浴室内外の温度差や水分補給に注意を払い、ご本人が安心して入浴して頂けるように支援している。またなるべく希望に沿った入浴時間帯に入浴して頂けるよう、各職員も努めている。	毎日の入浴の準備を行っていることもあり、利用者の中には日常的に入浴する等、入浴を拒む方への声かけと合わせて、一人ひとりに対応している。また、利用者の身体状態等に合わせた入浴支援や季節等にも合わせた入浴の取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	なるべく日中は散歩や日光浴等外気に触れて頂くように支援している。併せて多くの楽しみごとを増やし、安眠して頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの処方されている薬の目的・副作用を充分理解し、確実な服薬を援助し症状の変化に注意し健康維持に努めている。また訪問看護師により、職員に対し薬の説明や服用の理由等を説明してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者様の自立度に合わせた役割を持って頂き、自尊心を高める。また、各々の趣味や楽しみを把握し、張り合いのある日常生活が送れるよう援助している。その他にも恒例となった全施設合同での温泉一泊旅行も行っており、利用者様の楽しみにつながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	最善と考えられるコロナ対策をした上で。法人他施設との交流もしており、ドライブも合同で行っている。また地域行事へも参加して頂いたり、散歩等を意識的に取り組み、外出支援を行っている。	感染症問題が続いていることで、利用者の外出の機会が限られた範囲となっているが、利用者が日常的にホームの外に出る等、利用者の外出につなげる取り組みが行われている。また、例年については、関連事業所との外泊行事の取り組みが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	当ホームでは基本的には金銭の個人所持は控えていただいている。少額の所持でご本人の安心につながると云う事であればご家族様と相談の上所持していただく事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や大切なお友達への手紙・電話のやり取りについては相手の方の了承を得て援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	廊下、ホールに利用者様が描いたり作成した作品や外出時等の写真を飾ったり、あまり華美にならずに落ち着いた雰囲気でも過ごして頂けるような配慮をしている。	両ユニットが平面でつながっていることもあり、利用者が日常的にホームの外に出る等、日常生活の中で圧迫感を感じないような配慮が行われている。また、リビングや通路の壁面には、利用者の作品等を掲示する等、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールでは気の合った利用者様同士で会話をしたり、好きな事をして過ごして頂いている。共用空間には一人になれる場所が無いため、それぞれの居室を利用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人が使い慣れた家具・小物を持ち込む事で安心して落ち着いた生活が出来るように家族にも伝え、入所時に持ち込んで頂くことにより、混乱を減らし、居心地良い空間になるように努めている。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた家具類の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、利用者の中にはベッド以外で生活している方もあり、利用者の身体状態等に合わせた対応が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの身体能力に合わせ使いやすい工夫をし安全で自立した生活が可能な空間作りに努めている。		